

【取組内容】 実験の結果と考察を共有し、協働的にすすめる理科授業

▶ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

中学校 第1学年 理科授業
内容：音の高低

声・キーボード・音叉・モノコード、
4つの音源について、
それぞれ高い音と低い音の
波形データを収集し、
高い音と低い音の波形の特徴を
考察する授業。

Google スプレッドシートを
クラスで共有し、
自分の考えを入力し、
実験データを貼り付ける
作業スペースとして1人1列を
割り当てた。

① 予想を立てる場面

② 実験データを集める場面

③ 考察する場面

で他者参照が見られ、
全生徒がほとんど教師の助けを得ずに
すすめることができた。

生徒はお互いの実験データや
考察を参考にしながら、
自分の言葉で考えを深めていた。

	A	B	C	D	E	F
1	音の高低 1-1 授業			1	2	3
10	Which of the following waves represents the highest note?	次の波のうち、最も高い音を表しているのはどれでしょう？				▼選んで
11		この3択から		C	B	
12	high pitched sound (voice)	高い音 (声)				
13	low sound (Voice)	低い音 (声)				
19	low sound (mono code)	低い音 (モノコード)				
20	What are the characteristics of high and low sound waves?	高い音・低い音の波はどのような特徴になっていますか？		高い音は振幅が大きく、幅がせまい。それに比べ、低い音は振幅が小さく、幅が広がっている。	高い音は振幅が大きくて、低い音だと振幅は小さい。高い音は中心が数えづらいけど、低い方は数えやすい？	音の粒

【取組内容】 主体的に情報を収集し、スピーチ原稿を執筆する国語科授業

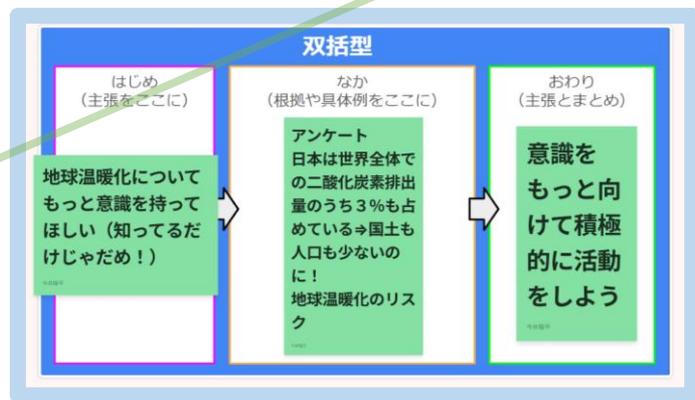
▶ 情報活用能力の育成

中学校 第3学年 国語科授業
内容：秀逸なスピーチ原稿を書こう

社会で起きている
出来事や問題について
スピーチ原稿を執筆する授業。

Google サイトで
情報共有ページをつくり、
生徒が執筆のヒントや
お互いの「構成メモ」を見て
執筆の参考にしたり、
情報収集のために
仲間へのアンケートを
実施したりできるようにした。

生徒は主体的に情報を集めながら、
スピーチの構成を吟味し、
執筆をすすめていた。



【単元を通して目指す文章】

- 具体的な数値・確かな根拠に基づいている文章
- 主張と根拠が結びついている文章
- 体験をふまえ、身近な例と結びつけている文章

【本文】
みなさん！いま世界全体で進んでいる地球温暖化という現象をそのまま放って置く
とどのようになってしまうのか、知っていますか？今、地球の平均気温は少しずつ
上昇を続けています。2021年の気象庁のデータでは、日本は100年あたり1.28度

【取組内容】「複線型授業ガイド」の作成

▶ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、複線型授業への挑戦を校内テーマとした。

実践に向けて、複線型授業の

- ① 前提
- ② 計画するにあたって
- ③ 実践中の心得
- ④ 評価の視点

という4つのポイントで次のような「複線型授業ガイド」をまとめた。

研究授業や一人一実践を重ねていく中で表現を修正したり、付け加えたりしていった。

"複線型"授業ガイド

Ver 1.3

甲府市立南西中学校

2024.9.10

参考文献： 鹿毛雅治「授業という営み 子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る」教育出版、2019

佐藤・泰山・大久保 編著「個別最適な学びと協働的な学びのために 考え方と取り組み方」

「これができる！ 個別最適な学びと協働的な学び」(GIGAスクールはじめて日記4)さくら社、2024

文部科学省「主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について」2017

「複線型授業」とは、
「学習者一人ひとりがそれぞれのペースやタイミングで学習を進める、学習者主体の授業形態」
： 大久保 紀一郎 (2024)

前提

"何のため"の複線型授業なのか？

南西中では

「主体的な学び」を実現するため

「主体的な学び」

- ▶ 生徒が没頭するような学習 : 鹿毛 雅治 (2019)
- ▶ 興味や関心のもと、見通しをもって、粘り強く取り組み、自分と結び付けながら、振り返って次へつなげる学習 : 文部科学省 (2017)
- ▶ 生徒が自走する学習 : 三井 一希 (山梨大学)

そのため

南西中の複線型授業では

生徒が、見通し : 生徒がその時間の(達成)目標を決めること
振り返り : やってみてどうだったのか、次どうするか することを重視

計画

"考えておく"ことは？

生徒の主体性には段階がある

観察 ▶ 模倣 ▶ 試行 ▶ 自己調整 : 泰山 裕 (中京大学)

生徒が主体性を発揮できる場面は

課題 ▶ 何をやるのか？
過程 ▶ どのように取り組むのか？
形態 ▶ 誰と取り組むのか？一人で進めるのか？
ツール ▶ 何を使うのか？
空間 ▶ どこでやるのか？
ペース ▶ どういう手順で取り組むのか？ : 三井 一希 (山梨大学)

以上から

複線型授業の段階

- 1 ▶ 教師がゴールや学び方を示し、子どもはそれを真似する
- 2 ▶ 教師が課題を設定し、学び方を教えながら取り組ませる
- 3 ▶ 教師は子どもだけでできる範囲で任せ、できない所は指導する
- 4 ▶ 最終的には教師の指導や支援を減らしていく : 佐藤 和紀 (2024)

評価

どのように主体性を"見取る"のか？

「主体的な学び」の評価

- ▶ 振り返りなどの生徒の記述、授業中の様子から生徒が没頭していたか、自走していたか、を見取る。
- ▶ 具体的には
 - 課題に取り組むことを楽しんでいたら？ (興味・関心)
 - 明確な(達成)目標を決められていたか？ (見通し)
 - 課題と自分を結びつけながら取り組んでいたか？ (自己との関連付け)
 - 課題に取り組み続けられたか？ (粘り強さ)
 - 課題の成果物やその取り組み方をより良いものにしてしていたか？ (向上心)
 - 授業を振り返り、自らの課題を認識したり、他の生徒と共有したりできていたか？ (振り返り)

実践

"教師の役割"は？

コーディネーター

- ▶ 多様な素材を適切に準備
- 課題の内容
- 本時の評価
- 他者参照できるデータ
- 進度や(探求の)視点の自己チェックリスト
- 手本や進め方のヒント

など、必要な情報を生徒が常に見られる環境を！

なるべく準備量をおさえて、無理なく続けられる実践を。

ファシリテーター

- ▶ コミュニケーションを通して学びを促す
- ▶ 特に、人と人をつなげる新しい視点に気が付かせるような声かけを！

- ・ ~さんと話してみたら？
- ・ ~という視点で考えると もっと深まりそうだね。
- ・ できた所まで友達に見てもらおう。

一言

別に発表させなくていいところで発表させていないか : 泰山 裕 (中京大学)

大人なら検閲から入るところを、子どもには考えさせるところから始めていないか : 泰山 裕 (中京大学)

子どもを信じて委ね、見守る : 鹿毛 雅治 (2019)

子どもと一緒に楽しみ、味わう : 鹿毛 雅治 (2019)

リーディングDXスクール事業【実践事例】

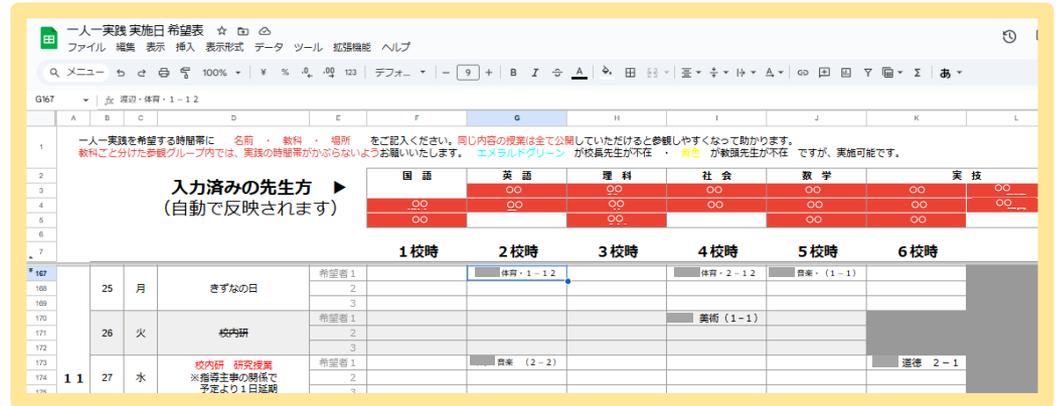
甲府市立南西中学校（山梨県）【指定校】

【取組内容】 一人一実践の運営と管理のDX

▶ 校務DX

多くの教員の日程調整を
オンラインで効率化する実践事例です。

今年度は、
Google スプレッドシートで作成した
カレンダーに希望を入力する形で
予定を管理することで、
事前の確認の手間を省いた。



指導案はGoogle ドキュメントの型を
全職員に一斉配布し、
Google ドライブの共有フォルダに集約した。
指導案を印刷・配布する必要がなくなったため、
実践の直前まで修正が可能となった。



それぞれのデータは
Google クラウドに集約した。

